

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	経営戦略研究科長	作成部局	経営戦略研究科
-----	----------	------	---------

【A票:教育研究目標1-1 企業経営戦略コース】

(タイトル)  
経営戦略専攻の教育研究目標

(狙い内容)  
本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業経験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた課題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、ならびにその応用力を培うことを目指している。特に新卒者も入学者として受け入れることから、就業意識を高めるための実践的な教育も目標の一つとしている。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

将来の企業経営者・管理職になる高度専門職業人を養成する。グローバルな視点から活躍できる人材養成を促進する。また女性の社会的活躍を支援するための教育システムづくりに取り組み、地域医療や介護と連動した医療マネジメント人材、事業承継などを契機とした中小企業の経営革新に資する人材、独立起業・新規事業を創造する人材を養成する。

<変更時記入欄>

(タイトル) 理論と実践の融合を希求した高度専門職業人の育成とその実現に資する効果的な教育研究環境の確保

(狙い・内容)

本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、学究的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業体験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた課題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、さらにはその応用力を培うことを目標にしている。新卒者も入学者として受け入れることから、就業に資する実践的な教育も目標に加えている。

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

- ・「タイトル」を、「狙い・内容」を表す表現に改めるため
- ・「狙い・内容」の表現をブラッシュアップするため

2. 達成度評価

評価指標	企業経営戦略コース定員の出願率の向上	評価尺度	A : 115%
			B : 110%
			C : 105%
			D : 103%
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>
	企業経営戦略コースの募集人員に対する出願者数の割合		A :
			B :
			C :
			D :

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 103%	B 111%	C 108%	B 110%	B 112%	B 114%	A 115%
	評価 尺度: A~D	D	B	C				
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	実績							
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	103%	114%	109%				

【2017年度の進捗状況について】

2016年度に比して若干の減少は見られるが、各行動計画の目標値を上回ることにより、中長期趨勢的には、目標達成が見込まれる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価指標の表現の修正

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

＜評価専門委員・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ 順調に進捗しており、大変評価できます。(A)
- ・ 概ね順調に進展しています。
- ・ 養成される職業会計人の数や目標値が示されることが期待されます。(C)
- ・ 順調に推移しており、評価できます。(D)
- ・ 引き続き学生確保に向けた積極的な取組みを期待しています。(E)
- ・ 企業経営戦略コースの入学者数は順調に推移しています。(F)
- ・ 行動計画1と2ともに順調です。評価尺度の上方修正が期待されます。(G)
- ・ 行動計画①は、今後の進展について期待が高まります。(H)
- ・ 適切な点検・評価が行われていて、評価できます。特に、ハッピーキャリアプログラムと医療系カリキュラムへの入学者の増加は、この研究科の新たな展開を期待できます。(I)
- ・ 順調に進展していることが窺えます。目標に対して適切なタイトルが付されています。(J)

【A票:教育研究目標1-2 国際経営コース】

(タイトル)  
経営戦略専攻の教育研究目標

(狙い内容)  
本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。  
より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業経験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた課題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、ならびにその応用力を培うことを目指している。特に新卒者も入学者として受け入れることから、就業意識を高めるための実践的な教育も目標の一つとしている。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

入学定員の充足

<変更時記入欄>

(タイトル) 理論と実践の融合を希求した高度専門職業人の育成とその実現に資する効果的な教育研究環境の確保

(狙い・内容)

本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、学術的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。  
より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業体験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた課題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、さらにはその応用力を培うことを目標にしている。新卒者も入学者として受け入れることから、就業に資する実践的な教育も目標に加えている。

1. 「教育研究目標」を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)  
一定規模の学生数の安定的な確保

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

- ・「タイトル」を、「狙い・内容」を表す表現に改めるため
- ・「狙い・内容」の表現をブラッシュアップするため
- ・1.「教育研究目標」を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)の表現を改めるため

2. 達成度評価

評価指標	入学定員の充足率	評価尺度	A : 100% B : 90% C : 80% D : 67%
	<変更時記入欄> 募集人員に対する入学者の割合		<変更時記入欄> A : B : C : D :

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 67%	C 87%	C 80%	C 85%	B 90%	B 95%	A 100%
	2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	D	C	実績 C				
見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	87%	103%	83%					

<2015年度策定時>「2021年度のめざす姿」を達成する上での、現状及び問題

【2017年度の進捗状況について】

日本政府の方針を受けてJICAが提供する「ABE Initiative」「Pacific-LEADS」「Japanese Initiative for the future of Syrian Refugees」などの教育・人材育成プログラムにより一定数の入学者を確保できているが、このプログラムによる入学者を除くと、サウジアラビア政府の奨学金削減政策による「サウジアラビア政府派遣生」(留学生)の減少等が影響し、進捗状況としては2016年度に比して後退した結果となった。  
2017年度から、既存の3つのMBAコースに加え、MBA科目と国連・外交コースとの合併科目からなる「Global Public Management Program」を設けた。本プログラムに対する関心は一定程度あると見込まれるので、入試説明会やウェブサイト上でのカリキュラムについての情報をより充実させ、出願者増及び入学者増につなげていきたい。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価指標の表現の変更

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・**いいえ**

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由: サウジアラビア政府の奨学金削減による留学生減少

②今後必要な取組み: 2017年度から、既存の3つのMBAコースに加え、MBA科目と国連・外交コースとの合併科目からなる「Global Public Management Program」を設けた。本プログラムに対する関心は一定程度あると見込まれるので、入試説明会やウェブサイト上でカリキュラムについての情報をより充実させる。  
具体的には、従来から行っている国内外での入試説明会の実施に加え、ウェブサイトのリニューアル、国際学研究所(博士課程前期課程)とのダブルディグリーなどのカリキュラムの改編を通じて、入学者増加に努力する。

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 内部進学者の確保について、引き続き努力することが期待されます。(A)
- ・ ほぼ現状維持で推移していますので、何らかの対策を検討されることが期待されます。(C)
- ・ 入学者数を確保するため、さらなる改善が望まれます。(D)
- ・ 昨年度に比べ、入学定員充足率は減少していますが、多様な地域からの学生が入学している様子が窺えます。引き続き積極的な取組みが期待されます。(E)
- ・ 経営戦略専攻の入学者数の更なる確保が期待されます。(F)
- ・ 引き続き実数ベースでの定員確保に向けての具体的取組みが期待されます。(G)
- ・ 前年度の第三者評価の意見を受けて、点検、改善がされていることは評価できます。一方、入学者についてはいまだに増加傾向が見られないので、国連・外交コースとの合併科目の導入などにより、よりアピール力のあるプログラムを提供することが望まれます。また、86行目に、「入試説明会の充実」により、入学者を増加する策が提示されていますが、具体的にどのように「充実」させるかを記述したほうが良いのではないのでしょうか。(I)
- ・ 目標に対して適切なタイトルが付されています。(J)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)  
会計専門職専攻の教育研究目標

(狙い内容)  
・建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成  
本学のスクールモットーであるMastery for Service( 奉仕のための練達)のスピリットを持ち、国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を持った職業会計人を養成する。  
・国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成  
会計に関する国際的な教育基準に従って、グローバルな視野をもった世界に貢献し得る職業会計人を養成する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

- ・グローバルに活躍できる職業会計人の育成。
- ・社会人のリカレント教育の充実。

**<変更時記入欄>**

(タイトル)高い職業倫理観と国際的な水準で世界の経済発展に貢献する職業会計人の養成

(狙い・内容)

- ・建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成  
本学のスクールモットー“Mastery for Service”( 奉仕のための練達)のスピリットを持ち、国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を持った職業会計人を養成する。
- ・世界に貢献し得る職業会計人の養成  
国際会計士連盟(IFAC)の国際教育基準(IES)に則り、高い志とグローバルな視野を持つ、世界に貢献し得る職業会計人を養成する。

**<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>**

- ・「タイトル」を、「狙い・内容」を表す表現に改めるため
- ・「狙い・内容」の表現をブラッシュアップするため

**2. 達成度評価**

評価指標	英語での授業科目及び高度な実践的科目の受講割合 (=上記科目の受講者数/在籍者数)	評価尺度	A : 45%
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>
			B : 35%
			C : 25%
			D : 16%
			A :
			B :
			C :
			D :

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 履修者数が6名で、8.1% であった。	D 履修者数が13名で、 18.6%であった。	C 第4Q開講科目があるので現 時点での記入はできない。	C	B	B	A
	評価 尺度: A~D	D	D	目標 D				
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	D 履修者数が6名で、8.1% であった。	D 履修者数が13名で、 18.6%であった。	目標 23.2%				

**【2017年度の進捗状況について】**

英語での授業科目については、「Fundamentals of Management Accounting」を新設した。残念ながら、当該年度での履修生はおらず不開講となったので、2018年度は曜日・時限、授業科目名称(「管理会計英語講義」に変更予定)を変更して開講するように改善策を検討済みである。また、高度な実践科目の数については、「経営診断論」という科目を新設した。この科目は会計的知識と経営学の知識を組み合わせ高度な実践的科目に該当する。受講割合は目標値にわずかに届かなかったが、次年度以降は、入学時のオリエンテーションで紹介する等情宣を充実させ、履修を促したい。  
なお、高度な実践的科目とは、財務会計事例研究、英文会計事例研究、管理会計事例研究、監査事例研究、租税法事例研究、会社法事例研究、経営診断論の7科目である。

**2017年度の取組み状況の確認**

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標1-2と同様、ほぼ現状維持で推移していますので、何らかの対策を検討されることが期待されます。(C)
- ・ 順調に進展していて、評価できます。(D)
- ・ 会計専門職大学院の問題は、本学に限らず難しい問題ですが、引き続き活性化に向けた取り組みに期待しています。(E)
- ・ 会計士の輩出に関する目標設定が期待されます。(F)
- ・ 進捗が遅れています。要因分析が求められます。(G)
- ・ 35行目の記述で、「高い職業倫理観と国際的な水準で世界の経済発展に貢献する職業会計人の養成」という目標がより明瞭に示されているのは評価できます。「英語での授業科目及び高度な実践的科目の受講割合」については、まだ結果が出ていないようですが、今後の増加が望まれます。なお、授業科目「Fundamentals of Management Accounting」については半角で記述したほうが良いでしょう。行動計画②にある「高度な実践的科目」とは、どのような科目を指すのか、例示をしたほうがわかりやすいと思います。(I)
- ・ 目標に対して適切なタイトルが付されています。(J)